てんかん発作時の座薬挿入

医療的ケア実施マニュアル

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏名（性別） | （　　　　　） | 学年 |  |

【準備・手順】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施内容 | 硬直発作が数分（1分以上）続いた時、座薬（　）mg（　）個挿入 | |
| 実施手順 | | 留意事項 |
| 必要物品 | ※手洗いをし、必要物品を準備する。  座薬（　）mg（　）個、ディスポ手袋 | |
| 準　備 | 1. 発作時は静かに寝かせて、呼吸が楽にできるよう衣服を緩める。 2. 吐物の誤嚥を防ぐため、顔を横に向ける。 | ・発作を誘発しないように、  　激しく動かしたりしない。  ・口の中に指や箸を入れな  い。 |
| 実　施 | 1. 発作の症状の観察を行い、座薬使用対象となる発作と判断したら、園長、副園長（校長、   教頭）に連絡する。   1. 園長、副園長（校長、教頭）の指示で、保育士（教員）が、保護者に連絡をする。 2. バイタルサインのチェック   ・発作の型や持続時間  ・意識障害の有無、チアノーゼ、随伴症状等の  　観察   1. 保護者から座薬挿入の依頼がある場合、園長、副園長（校長、教頭）の指示のもと、   氏名、薬品名、量を確認し、座薬を挿入する。   1. 発作後の状態を観察する。   ・座薬挿入を行っても、てんかん発作が悪化す  　る場合は、園長（校長）の指示で救急搬送を  　検討する。   1. 発作の状態、持続時間、発作後の状態などを記録する。 | ・指示系統は明確にしておく。  ・呼吸状態に注意する。  ・主治医の指示に基づき、座  薬は正しく使用する。  ・座薬挿入時、ゴム手袋を使  用する。  挿入時、キシロカインゼリ  ーは使用しない。（まれに  ショックを起こす場合あ  り）  ・発作後はゆっくり休ませる  ・副作用：呼吸抑制など。その  　他一般状態も継続して観察  する。  ・救急搬送の場合は、保護者  　に確認してから救急要請す  る。  ・発作後の状態を、主治医に  報告（してもらう） |

【緊急時対応】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| トラブル | 保育士（教員）の対応 | 看護師の対応 |
| けいれん発作が止まらない（　　分以上）場合 |  | 保護者に確認してから、救急車搬送 |
|  |  |  |

【緊急連絡先】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　＜連絡先＞

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 保護者 | （母）  （父） | －　　　　－  　　　－　　　　－ |
| 主治医 | 病院（小児科） | －　　　　－ |
| 救急搬送 | けいれん発作が止まらない時、救急搬送する。ドクターヘリ搬送が必要な場合がある。 | |
| その他 |  | |

（作成日）　令和　　　年　　　月　　　日

（作成者）

（保護者署名）